35004670-06

SecureLock +Guardで暗号化しよう（Windowsのみ）

本紙では、付属のAES暗号化ソフトウェア「SecureLock +Guard」でデータを暗号化する手順を説明します。

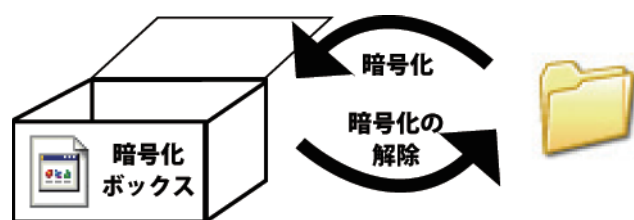
※タブレットの場合は、「クリック」を「タップ」に読み替えてください。

SecureLock +Guardとは

SecureLock +Guardとは、ファイルやフォルダーを暗号化するソフトウェアです。また、暗号化したデータを保護して不正アクセスや誤操作などにより暗号化したデータが削除されることを防止できます。

暗号化機能

まず、暗号化ボックスを作成します。暗号化ボックスとは「SecureLock +Guard」でしか開けないファイルで、この中に暗号化するデータを保存します。

暗号化ボックスを作成したら、データを暗号化ボックスに移動（コピー）しSecureLock +Guardを終了します。これで暗号化は完了です。暗号化ボックスはSecureLock +Guardでパスワードを入力しないと開けませんので、他の人にデータを閲覧されることを防止できます。

1 暗号化ボックスを作成する

2 データを暗号化ボックスに入れる

3 暗号化ボックスを開いてデータを取り出す（パスワードが必要）

パソコンではどう見える？	
	暗号化ボックスは、左のように表示されます。暗号化ボックスを開くには、パスワードが必要となります。 **Note:** 暗号化ボックスの保護機能を有効にすると、暗号化ボックスを見えなくすることができます。

暗号化ボックスの保護機能

暗号化ボックスの保護機能は、暗号化機能で作成した暗号化ボックスをWindows上で見えないようにする(保護する)機能です。この機能を有効にすると、誤操作などで暗号化したデータを削除してしまう心配がなくなります。万が一、お使いのパソコンに不正アクセスされたときでも、暗号化したデータは無事に保護されます(削除、編集される恐れはありません)。

保護の有効/無効はドライブごとに設定できます。保護を有効にしたドライブではフォーマットやパーティションの削除ができなくなりますので、誤って暗号化ボックスを削除してしまう心配もなくなります。

保護しないと･･･

Windowsでファイルを確認できます。
不正アクセスや誤操作などにより暗号化ボックスが削除される可能性があります。

保護すると

Windowsではファイルを確認できません。
不正アクセスや誤操作などにより暗号化ボックスが削除されることはありません。

ソフトウェア仕様

暗号化機能

暗号化方式	AES 128/256
対応OS	Windows 8(32bit,64bit)/7(32bit,64bit)/Vista(32bit,64bit)/XP/2000/Me/98SE/98
対応機器	SecureLock +Guardの添付製品（本製品）のみ

暗号化ボックスの保護機能

対応OS	Windows 8(32bit,64bit)/7(32bit,64bit)/Vista(32bit,64bit)/XP Service Pack 2以降 /2000 Service Pack 4以降 **Note:**「Windows 2000 SP4 対応の更新プログラム ロールアップ 1 (KB891861)」が必要です。Windows Update（http://windowsupdate.microsoft.com/）からインストールしてください。
対応機器	SecureLock +Guardの添付製品（本製品）のみ

制限事項

SecureLock +Guard のご使用にあたって、以下の制限事項があります。あらかじめご了承ください。

暗号化機能に関する制限

- 暗号化ボックスは、複数のファイルに分割して保存されます。分割されたファイル名は、「（ファイル名）.***」となります（「***」は数字）。分割されたファイルを1つでも削除した場合は、暗号化ボックスを開けなくなります。

  Note: 4 GB未満の暗号化ボックスの場合は、2つのファイルに分割して保存します。4 GB以上の暗号化ボックスの場合は、約4 GBごとのファイルに分割して保存します。
- 4 GB以上のファイルは、暗号化ボックスに入れることができません（暗号化できません）。
- 暗号化ボックスは、対応機器にのみ作成できます。パソコン本体のハードディスクなどには作成できません。

暗号化ボックスの保護機能に関する制限

- 保護を有効にしたドライブは、フォーマットやパーティションの削除など「ディスクの管理」を使って行う操作ができなくなります。「ディスクの管理」を使用した操作を行うときは、保護を無効にしてください。
- 保護を有効にしたドライブは、エラーチェックや最適化（デフラグ）を行えません。エラーチェックや最適化を行うときは、保護を無効にしてください。
- 暗号化ボックスはWindows上で表示されなくても、保存したドライブに存在します。そのため、保護を有効にしたドライブでは、使用できる容量が暗号化ボックスの容量分少なくなります。
- 保護を有効にしたドライブを複数のパソコンで使用する場合は、使用するすべてのパソコンで暗号化ボックスの保護を有効にしてください。有効にしていないパソコンでは、エクスプローラー上に暗号化ボックスが表示されます。

- 保護を有効にすると、拡張子が「.slw」のファイルがすべて見えなくなります。拡張子が「.slw」のファイルを操作するときは、保護を無効にしてください。

データを暗号化する

暗号化機能の使いかたを説明します。

暗号化ボックスを作成する

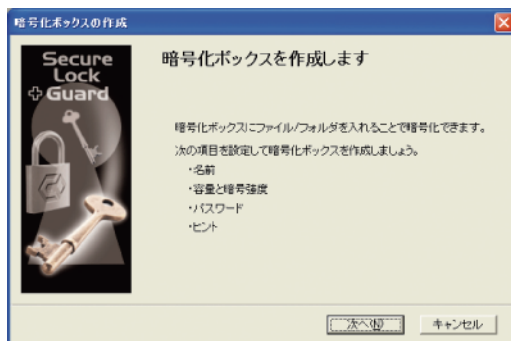
データを収録する暗号化ボックスを作成します。

暗号化ボックス作成時の注意

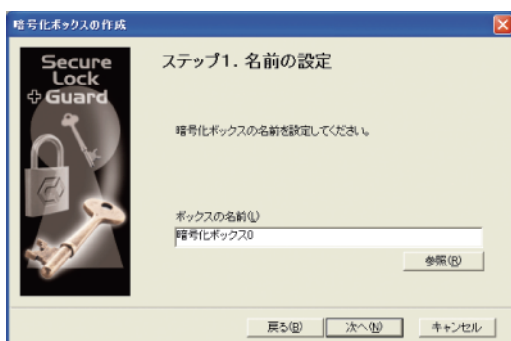
- 暗号化ボックス作成時にお客様が容量を指定します。指定した容量を超えるデータ（総容量）は入れられませんのでご注意ください。
- 暗号化ボックスは、対応機器にのみ保存することができます。パソコン本体のハードディスクなどには保存できません。
- 一度作成した暗号化ボックスの容量は変更できません。ご注意ください。
- 作成済みの暗号化ボックスがあるかないかによって手順が異なります。既に作成済みの暗号化ボックスがある場合は、「別の暗号化ボックスを作成する場合」を参照してください。

初めて暗号化ボックスを作成する場合

1 [スタート]－[（すべての）プログラム]－[BUFFALO]－[SecureLock +Guard]－[SecureLock +Guard]をクリックします。
Windows 8の場合は、スタート画面の[SecureLock +Guard]をクリックします。

2 [次へ]をクリックします。

3

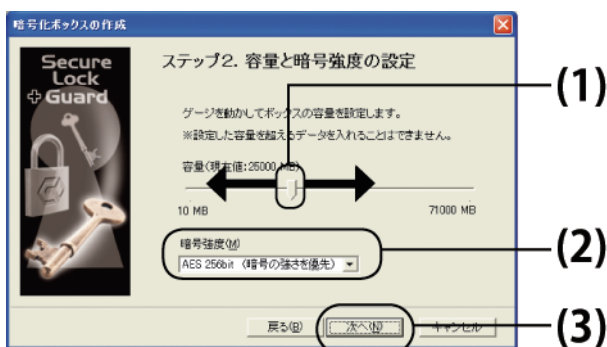
(1) 暗号化ボックスの名前を入力します。

(2) [次へ]をクリックします。

保存先を変更したいときは、[参照]をクリックして、保存先を指定することもできます（対応機器以外の場所へ保存することはできません）。

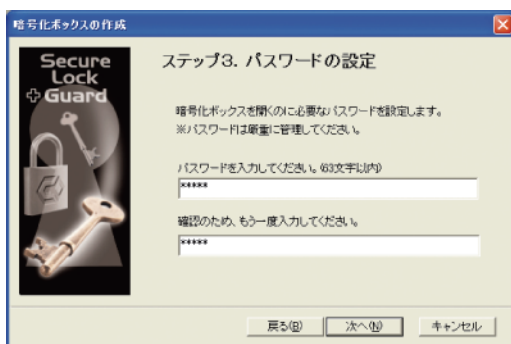
4

(1) ゲージを動かし暗号化ボックスの容量を指定します。

(2) 暗号強度を選択します。

(3) [次へ]をクリックします。

5

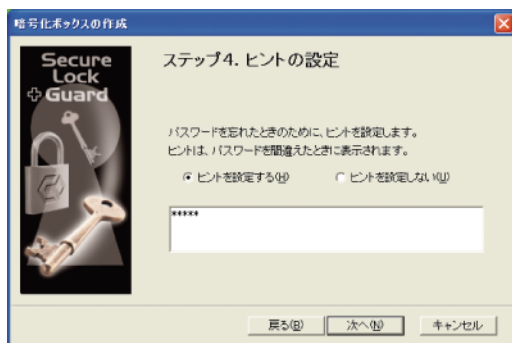
(1) パスワードを2箇所入力します（1～63文字の半角英数字）。

(2) [次へ]をクリックします。

パスワード設定時のご注意

- パスワードを忘れると、記録されているデータを読み出せなくなりますので、ご注意ください。
- 設定したパスワードはお客様の責任で厳重に管理してください。特にパソコンの近くにパスワードのメモを貼り付けたり、パスワードをファイルに書き込んで保存することはお止めください。
- パスワードは、第三者に推測されやすいもの（例えば、電話番号や名前、車のナンバーなど）を避けて設定してください。
- パスワードは変更することはできませんので、ご注意ください。

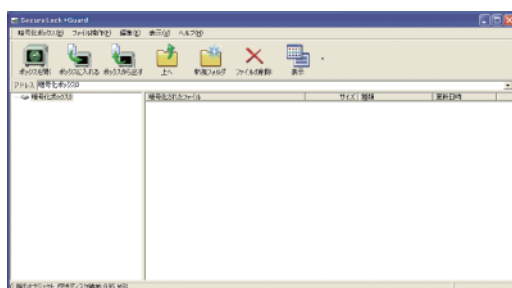
6

(1) パスワードのヒントを設定します。

(2) ［次へ］をクリックします。

Note: ヒントを設定しておくと、パスワードの入力を間違えた際にヒントが表示されます。ヒントは誰でも見ることができるため、本人以外の方がパスワードを推測できないものにすることをおすすめします。

7 「暗号化ボックスを作成します。よろしいですか？」と表示されたら、［OK］をクリックします。

Note: 1 GBの暗号化ボックスを作成するのに約40秒（USB1.1接続の時は約20分）かかります。手順8の画面が表示されるまでSecureLock +Guardを終了しないでください。

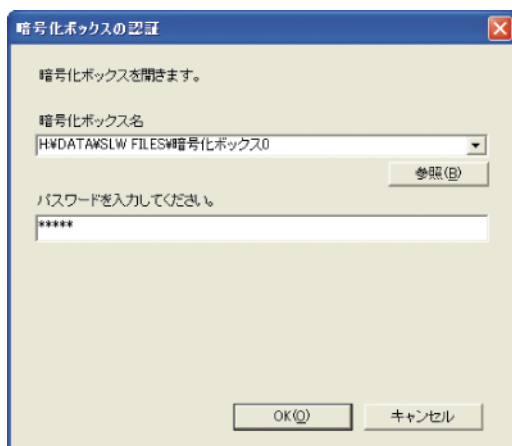
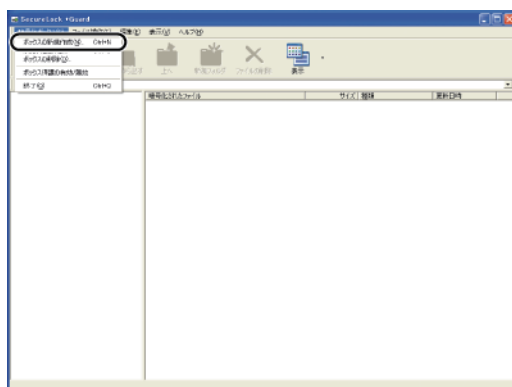
8 暗号化ボックスが作成され、以下の画面が表示されます。

以上で暗号化ボックスの作成は完了です。続いてデータを暗号化しましょう。「データを暗号化ボックスに入れる」を参照してください。

別の暗号化ボックスを作成する場合

作成済みの暗号化ボックスとは別の暗号化ボックスを作成するときは、以下の手順で行ってください。

1 ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［BUFFALO］－［SecureLock +Guard］－［SecureLock +Guard］をクリックします。

Windows 8の場合は、スタート画面の[SecureLock +Guard]をクリックします。

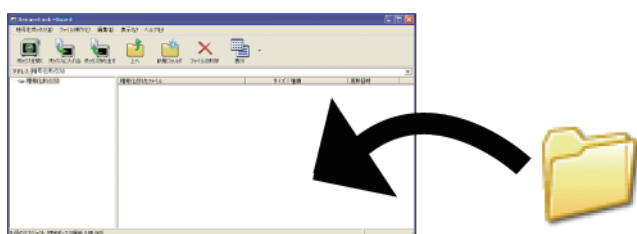
2 [キャンセル]をクリックします。

3 [暗号化ボックス]ー[ボックスの新規作成]をクリックします。

4 以降は「初めて暗号化ボックスを作成する場合」の手順2以降の手順を行ってください。

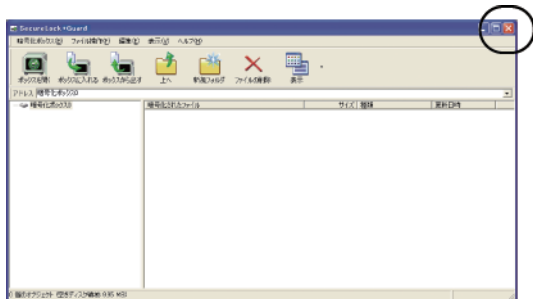
データを暗号化ボックスに入れる

暗号化したいデータを、SecureLock +Guardの画面にドラッグすると、データが暗号化ボックスに収録されます。暗号化ボックスに収録されたデータは、暗号化されて他の人が見ることができなくなります。

Notes:

- 4 GB以上のファイルは、暗号化ボックスに入れることはできません(暗号化できません)。
- 暗号化ボックスを開いていない場合は、[暗号化ボックス]ー[ボックスを開く]を選択して暗号化ボックスを開いてください。

1 暗号化するデータをドラッグします。

Note: 1 GBのファイルを暗号化するのに約20分（USB1.1接続のときは約70分）かかります。暗号化しているときはパソコンに大きな負荷がかかっていますので、パソコンの操作をしないでください。

2 画面右上の［×］をクリックして画面を閉じます。

以上で、暗号化ボックスにデータを入れる作業は完了です。

暗号化ボックスを開いてデータを取り出す

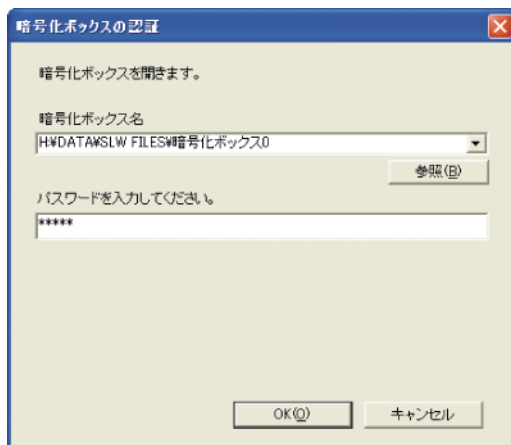
暗号化ボックスを開いてデータを取り出すときは、以下の手順で行ってください。

1 ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［BUFFALO］－［SecureLock +Guard］－［SecureLock +Guard］をクリックします。
Windows 8の場合は、スタート画面の［SecureLock +Guard］をクリックします。

2

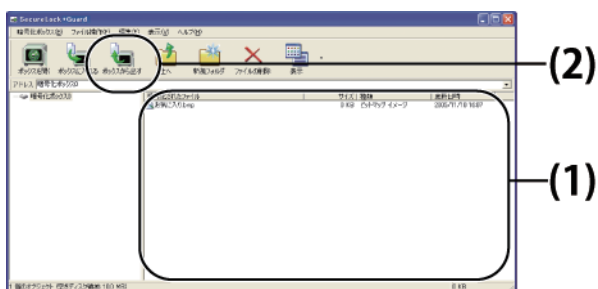
(1) 暗号化ボックスのボックス名を確認します。

(2) パスワードを入力します。

(3) ［OK］をクリックします。

［参照］をクリックすると、暗号化ボックスを指定できます。

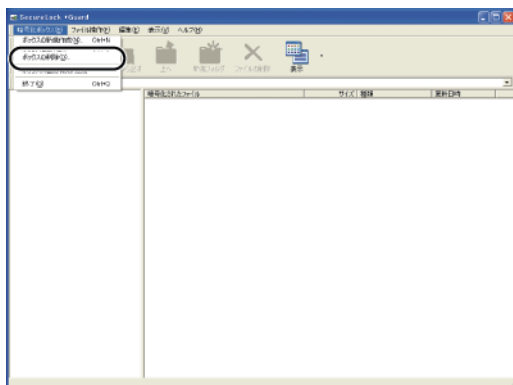
3

(1) 暗号化ボックスから取り出したいデータをクリックします。

(2) ［ボックスから出す］をクリックし、ファイルの保存先を指定します。

画面に従って保存先を指定すると、暗号化が解除されたデータがパソコンにコピーされます。
暗号化ボックス内のデータを削除したい場合は、削除したいデータをクリックしてから[ファイルの削除]を選択してください。

暗号化ボックスを削除するときは

暗号化ボックスを削除する場合は、[暗号化ボックス]－[ボックスの削除]を選択し、削除するボックスを選択します。

1 [暗号化ボックス]－[ボックスの削除]を選択します。

以降は画面に従って削除するボックスを指定すると、暗号化ボックスが削除されます。

暗号化ボックスを保護する

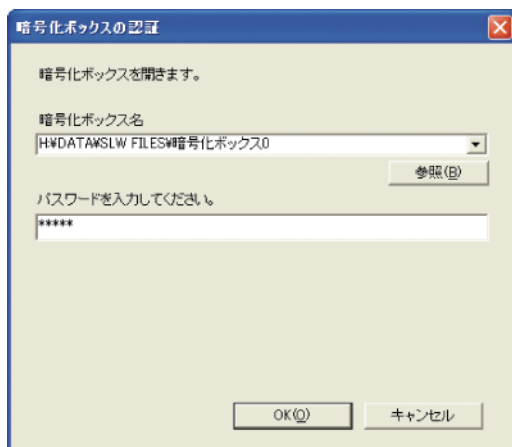
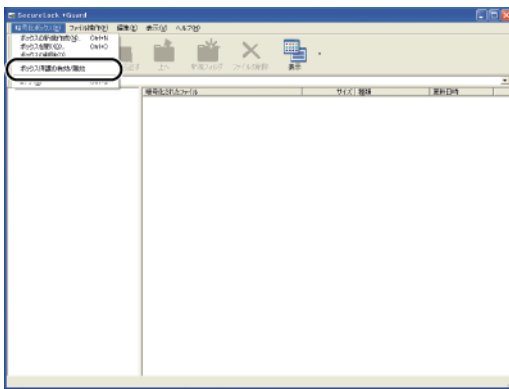
暗号化ボックスをWindows上で見えないようにする（保護する）手順を説明します。暗号化ボックス保護を有効にすると、暗号化したデータを不正アクセスや誤操作などから守ることができます。

暗号化ボックスを保護するときの注意

- 暗号化ボックス保護の有効/無効を設定するときは、コンピュータの管理者権限のあるユーザーでログインしてください。
- 保護の有効/無効はドライブごとに設定します。保護を有効にしたドライブにある暗号化ボックスはすべて保護されます。
- 保護を有効にしたドライブは、フォーマットできなくなります。フォーマットするときは、保護を無効にしてください。
- 暗号化ボックスはWindows上では表示されなくなりますが、保存したドライブに存在します。そのため、保護を有効にしたドライブでは、使用できる容量が暗号化ボックスの容量分少なくなります。
- 保護したドライブを複数のパソコンで使用する場合は、使用する全てのパソコンで以下の手順を行ってください。以下の手順を行っていないパソコンでは、エクスプローラー上に暗号化ボックスが表示されます。

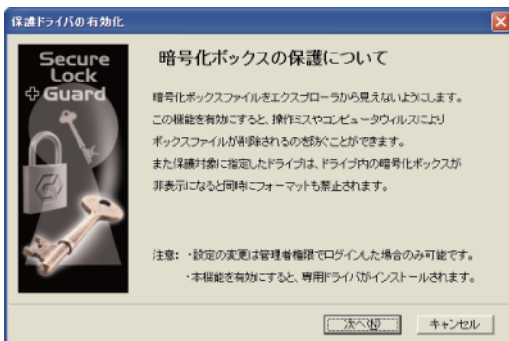
保護する手順

1 ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［BUFFALO］－［SecureLock +Guard］－［SecureLock +Guard］をクリックします。
Windows 8の場合は、スタート画面の［SecureLock +Guard］をクリックします。

2 ［キャンセル］をクリックします。

3 ［暗号化ボックス］－［ボックス保護の有効/無効］をクリックします。

Note:「プログラムを実行するにはあなたの許可が必要です」と表示されることがあります。その場合は、[はい]または[続行]をクリックしてください。

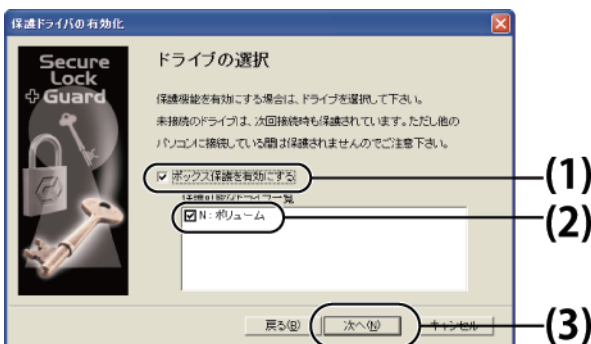
4

(1) メッセージをよく確認します。

(2) [次へ]をクリックします。

5

(1)「ボックス保護を有効にする」にチェックマークを付けます。

(2) 暗号化ボックスを保存したドライブにチェックマークを付けます。

(3) [次へ]をクリックします。

画面には、本ソフトウェアの対応ドライブのみ表示されます。

6 「ボックス保護を有効にしました」と表示されたら、[OK]をクリックします。

以上で暗号化ボックスの保護は完了です。

SecureLock +Guardの削除

SecureLock +Guardの使用を中止する場合は、以下の手順でSecureLock +Guardを削除してください。

Notes:

- SecureLock +Guardを削除すると、暗号化したデータ（暗号化ボックス内のデータ）を読み出すことができません。
- 暗号化ボックスの保護機能を有効にしている場合は、SecureLock +Guardを削除する前に、暗号化ボックスの保護機能を無効に設定してください。
- お使いのOS によって、ボタンの名称が異なります。
- 「プログラムを実行するにはあなたの許可が必要です」と表示されることがあります。その場合は、[はい]または[続行]をクリックしてください。

1 [スタート]－[コントロールパネル]を選択します。
Windows 8の場合は、スタート画面で[デスクトップ]を選択→カーソルを画面の右上端に移動（タブレットでは画面右端を左にスライド）して[設定]を選択→[コントロールパネル]を選択します。

2 [プログラムのアンインストール]、[プログラムと機能]、[プログラムの追加と削除]のいずれかをクリックします。

3 [BUFFALO SecureLock +Guard]を選択し、[アンインストールと変更]、[アンインストール]、[削除]のいずれかをクリックします。

以降は、画面の指示に従って削除してください。